

【 専門分野 】 精神看護学 6単位 180時間

I. 科目構築の考え方

精神看護学は、人間の心の健康について理解を深め、あらゆる健康レベルにある看護の対象の健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる看護学である。看護の対象である人間は身体的・精神的・社会的・性的に統合された存在であり、社会環境の影響や個人の多様な価値観によって形成される。また人間のアイデンティティは、言い換えればその人らしさであり、社会とつながり豊かなライフサイクルを生き抜くためのコアである。そのライフサイクルの節目で人間は精神的・社会的危機に直面し、さまざまな健康問題として、日常生活や社会生活に支障をきたすことがある。そのため、人間の心の構造と機能を理解し、人間の生涯にわたるライフサイクルの節目の危機的状況と健康問題について、各領域と関連させながら学びを進めていく。また個人の生活行動や人間関係に焦点を置いた心の健康への援助を学ぶ。

科目の構成は、看護の対象の社会（環境）背景や社会保障制度などの環境や保健・医療・福祉との連携・協働のあり方などを広く学び、精神看護学における看護の役割や機能、患者の権利とその権利の擁護者として看護のあり方について学ぶ内容として精神看護学概論を設定する。次に、医学的対応と管理が必要な精神障害をもつ看護の対象とその看護について学ぶ内容として精神看護学方法論Ⅰを設定する。また、ライフサイクル各期におけるこころの健康レベルと多様な看護の場とその役割や機能、地域の保健・医療・福祉の連携・協働について学ぶ内容として精神看護学方法論Ⅱを設定する。臨地実習では、心の健康問題とともに自分らしく地域で生活する看護の対象に対する自治体を中心とした保健・医療・福祉の一体的な取り組みと、医学的対応と管理が必要な精神障害をもつ看護の対象とその家族に対する看護を学ぶ内容として精神看護学実習を設定する。

II. 目的・目標

1. 目的

身体的・精神的・社会的・性的に統合された人間の心の構造と機能に焦点をあて、ライフサイクル各期の特徴や健康レベル・健康問題を理解し、多様な場であらゆる健康レベルにある看護の対象を支援する知識・技術・態度を学ぶ。

2. 目標

- 1) 心の健康に関する多様な価値観や概念について、社会（環境）背景をとおして理解する。
- 2) 看護の対象のライフサイクル各期の特徴を理解し、対象の健康レベルや健康問題に応じて必要となる医学的対応と看護を理解する。
- 3) 対象の心の健康レベルに応じた支援について、看護の役割・機能や他職種・多職種との連携・協働を通して理解できる。
- 4) 対象の心の健康レベルを理解し、医学的な診断や対応・管理が必要な対象とその家族に対する看護を理解できる。

Ⅲ. 科目の構成

専門分野	科目名 (時間)	単元 (時間)
精神看護学 6 単位 180 時間	精神看護学概論 (1 単位 15 時間)	精神看護学の理解(3)
		心のはたらきと人格の発達(2)
		精神の健康と障害 (4)
		人間と集団、社会の中の精神障害、精神障害者の権利擁護と看護者の責務(4)
		精神看護の役割と機能(2)
	精神看護学方法論 I (1 単位 30 時間)	精神障害の理解(2)
		精神症状の理解(4)
		精神障害の診断・検査・治療(16)
		入院生活上の問題と援助(4)
		精神障害者の社会復帰支援(4)
	精神看護学方法論 II (2 単位 45 時間)	患者看護の基本、患者-看護師関係の理解 (4)
		診察・検査及び治療に伴う看護、家族への支援(10)
		精神障害者の看護(6)
		心の健康を支援する技術(8)
		精神障害の治療法の実際(4)
	精神看護学実習 (2 単位 90 時間)	精神障害のある患者の看護過程展開(14)
		地域における包括的な精神医療(21) 精神科医療における医学的対応・管理(69)

IV. 授業の概要（シラバス）

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	精神看護学概論 1 単位 (15 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 後期														
講師名 所属	山田 祐子 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 16 年																				
授業概要	人間を身体的・精神的・社会的・性的に統合された存在として理解し、人間の心の観点から多様な価値観に基づく心の健康について学ぶ。精神看護学における看護の対象は、人間のライフサイクル各期におけるあらゆる健康レベルのすべての人びとである。心の考え方には社会（環境）背景が影響するため、対象個人の問題として考えるのではなく、社会背景含めた個人の特徴として考える広い視野が必要である。さらに、心の健康レベルはライフサイクルの進行に伴う社会との関わりの複雑化とメンタルヘルスが大きく関わるため、地域での一体的な取り組みが必要となる。そのため、あらゆる健康レベルにある看護の対象がその人らしく生活するために必要な支援について、ライフサイクル各期で直面する課題と影響を与える環境、保健・医療・福祉との連携・協働による支援のあり方を学ぶ。また、精神科領域における保健医療福祉に関する歴史・法律・制度の変遷を体系的に学習し、精神疾患を抱えながら生活している人々の人権や権利擁護といった精神科看護実践の基礎となる考え方や態度を学ぶ。																				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康と障害、人間の心のはたらきについて理解できる 2. 社会の中の精神障害について理解できる 3. 精神障害者の権利擁護と看護師の責務について理解できる 4. 精神保健医療福祉対策とその動向について理解できる 5. 精神看護の役割と機能について理解できる 																				
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院. 2. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院. 																				
参考文献	1. 新版 精神看護学 一般社団法人日本精神科看護協会 中央法規																				
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 15%;">筆記試験</td> <td style="width: 15%;">○</td> <td style="width: 15%;">レポート</td> <td style="width: 15%;">○</td> <td style="width: 15%;">技術確認</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート	○	技術確認			口頭試問		授業態度		出席状況		
筆記試験	○	レポート	○	技術確認																	
口頭試問		授業態度		出席状況																	
授業計画																					
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師															
1	1. 精神看護学の理解 1) 精神看護学の基本的な考え方 (1) 精神看護と精神科看護 (2) 心の健康問題とその現状 (3) 心のケア 2) 精神看護の展望と課題 (1) 世界的な課題としてのメンタルヘルス (2) 世界からみた日本の精神科医療の課題 (3) 多様化する精神科医療のニーズ			講義		山田 祐子															

2	<p>2. 心のはたらきと人格の発達</p> <p>1) 心の機能と発達</p> <p>2) 精神力動理論</p> <p>(1) 自我の構造</p> <p>(2) 自我の発達</p> <p>(3) 自我の防衛機制</p> <p>3) ライフサイクルとアイデンティティ</p>	講義	山田 祐子
3	<p>3. 精神の健康と障害</p> <p>1) 精神の健康とは</p> <p>(1) 精神の健康の定義</p> <p>(2) 精神的健康 (well-being) の維持</p> <p>(3) 精神障害の予防医療 (一次・二次・三次予防)</p> <p>2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響</p> <p>(1) ストレスと危機</p> <p>(2) 危機への介入</p> <p>(3) 危機理論</p> <p>(4) ストレス適応理論</p> <p>3) 精神看護対象の理解と支援のための概念</p> <p>(1) ストレンジモデル</p> <p>(2) リカバリーモデル</p> <p>(3) エンパワメント</p>	講義	
4・5	<p>4) 精神障害をもつ人の病の体験と精神看護</p> <p>(1) 対人関係の難しさ</p> <p>(2) 精神障害をもつ人の「生きにくさ」の理解</p> <p>※ 演習方法：ドキュメンタリー映画「精神」を鑑賞し、自身が感じたことを言葉に表現する。</p>	演習	
6・7	<p>4. 人間と集団</p> <p>1) システムとしての人間関係</p> <p>2) 全体としての家族</p> <p>3) 人間と集団</p> <p>5. 社会の中の精神障害</p> <p>1) 精神障害と治療の歴史</p> <p>2) 日本における精神医学・精神医療の流れ</p> <p>6. 精神障害者の権利擁護と看護者の責務</p> <p>1) 偏見、差別、スティグマ</p> <p>2) 精神科領域で必要な法律と制度および課題</p> <p>3) おもな精神保健医療福祉対策とその動向</p>	講義	
8	<p>7. 精神看護の役割と機能</p> <p>1) 対人関係理論</p> <p>(1) ヒルデガード・E・ペプロウ</p> <p>2) 精神科における看護の役割と機能</p> <p>3) リエゾン精神看護</p>	講義	

	(1) 看護師の不安と防衛 (2) リエゾン精神看護とその役割		
	終講試験	試験(評価)	単位認定者 山田 祐子

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	精神看護学方法論 I 1 単位 (30 時間)	授業 形態	講義	開講 時期	2 年 前期												
講師名 所属	近藤 萌 肥前精神医療センター 医師 住吉 孝久 肥前精神医療センター 医師 浪花 孝明 肥前精神医療センター 医師 古川 麻美 肥前精神医療センター看護師 山田 祐子 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 16 年																		
授業概要	本科目では、精神看護の対象のライフサイクル各期において生じるおそれのある健康問題への医学的対応とその看護について学ぶ。精神障害の症状、診断、検査、治療、精神療法について体系的に学習し、精神的な健康問題を抱えながら生活している人びとの看護実践の基礎となる考え方や態度を養うことを目的とする。この科目では小児期から老年期にある対象の健康問題と健康レベルを医学的対応と管理に焦点をあてて学ぶ。看護では、入院時の看護および、精神障害者の社会復帰支援について学習する。																		
科目目標	1. 精神に障害をもつ対象の病態、症状、検査、治療について理解できる 2. 入院上の問題と援助について理解することができる。 3. 精神障害者の社会復帰支援について理解することができる。																		
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院. 2. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院. 3. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図																		
参考文献																			
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">筆記試験</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">○</td> <td style="width: 25%;">レポート</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 15%;">技術確認</td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術確認		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術確認															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師														
1	1. 精神障害の理解 1) 「疾患」と「障害」 2) 精神障害者の法律的定義 3) 国際生活機能分類 (ICF) の考え方			講義	山田 祐子														
2・3	2. 精神症状の理解 1) 思考の障害 2) 感情の障害 3) 意欲の障害 4) 知覚の障害 5) 意識の障害 6) 記憶の障害 7) 局在症状 (失語・失行・失認)			講義	近藤 萌														
4・5	3. 精神障害の診断・検査・治療 1) 精神作用物質による精神・行動の障害 (1) アルコール症 (2) 薬物依存 (3) ゲーム・ギャンブル障害 2) 器質性精神障害			講義															

6・7	3) 統合失調症 4) 気分（感情）障害	講義	住吉 孝久
8・9	5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 6) 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 7) パーソナリティ障害 8) 知的障害・精神遅滞 9) 心理的発達の障害 10) 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 11) 心身症	講義	
10	12) 薬物療法 13) 電気けいれん療法（ECT）	講義	浪花 孝明
11	14) 精神療法 (1) 精神療法における患者－治療者関係 (2) 精神療法の種類	講義	
12	4. 入院上の問題と援助 1) 病棟環境・病室環境の調整 2) 入院生活上の問題とケアの視点	講義	古川 麻美
13	3) リスクマネジメントの考え方と方法 (1) リスクマネジメントと行動制限 (2) 自傷・他害への対応（自殺、暴力） (3) 無断離院		
14・15	5. 精神障害者の社会復帰支援 1) 地域精神保健の視点 2) 地域生活を支えるシステム (1) 地域包括ケアシステム (2) 精神科デイケア、精神科ナイトケア (3) 精神科訪問看護 (4) アウトリーチ 3) 社会資源の活用 (1) 社会資源の活用とソーシャルサポート (2) 相談支援・就労支援・生活支援 (3) セルフヘルプグループ、患者会、ピアサポート 4) 地域におけるケアの方法と実際		
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 山田 祐子

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	精神看護学方法論Ⅱ 2単位(45時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2年 後期																
講師名 所属	寺田 鈴子 肥前精神医療センター 看護師 霜村 健 肥前精神医療センター 看護師 吉岡 賢一 肥前精神医療センター 看護師 津村 俊博 肥前精神医療センター 看護師 森 啓訓 友朋会嬉野温泉病院 芸術療法士 山田 祐子 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 16年																						
授業概要	<p>本科目では、精神看護学方法論Ⅰで学んだ知識をもとに、対象の心の健康レベルに応じた支援について、保健・医療・福祉の視点から学ぶ。心の健康を支援するためには、自らをヘルスアセスメントするコーピングやレジリエンスを体験的に理解し、援助につなげる思考づくりを目指す。そのため、グループワークでは、グループ内でのディスカッションや教員からのフィードバックを受け、多角的にアセスメントを行い、ケアプランを立案できる能力を養う。患者・看護師関係の形成に必要な技術の理解では、プロセスレコードを用いた演習を設定している。プロセスレコードの振り返りにより、治療的コミュニケーションの強化や人間関係形成につなげる思考を育成する。また、対象者の心理状態を理解し、心理的支援を行えるようになるために、認知行動療法と解決思考アプローチ、カウンセリング技法の基礎を学ぶ。</p> <p>本科目の最後には、精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術・態度を活用して、紙面事例を展開する(統合失調症患者)。立案した看護計画に基づいて実践(ロールプレイング)を行い、看護の妥当性を評価する。一連の看護過程を展開していく中で、精神看護のあり方について考える。</p>																						
科目目標	1. 患者看護の基本となる患者－看護師関係について理解できる 2. 入院生活上の問題と援助について理解できる 3. 患者家族の心理や負担とその援助の方法が理解できる 4. 患者のおもな症状の特徴とそれに対する看護について理解できる 5. 診察・検査および治療に伴う援助や指導について理解できる 6. 心の健康レベルに応じた様々な関わり方を理解できる																						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院. 2. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院. 3. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図																						
参考文献	1. 看護理論の臨床活用 パトリシア・R・アンダーウッド 日本看護協会出版会																						
評価方法	ワーク、ロールプレイやディスカッションでは積極的な参加が求められるため、授業態度も評価に含む。詳細は別紙「評価計画」参照																						
<table border="1"> <tr> <td>筆記試験</td> <td>○</td> <td>レポート</td> <td>○</td> <td>技術確認</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td>○</td> <td>出席状況</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								筆記試験	○	レポート	○	技術確認				口頭試問		授業態度	○	出席状況			
筆記試験	○	レポート	○	技術確認																			
口頭試問		授業態度	○	出席状況																			
授業計画																							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師																	
1	1. 患者看護の基本 2. 患者－看護師関係の理解 1) かかわりの意味			講義		山田 祐子																	

	<ul style="list-style-type: none"> 2) 人間関係的技術の理解 3) コプロダクション 4) 精神科における観察と記録の特徴 		
2	<ul style="list-style-type: none"> 5) プロセスレコードの活用 ※ 対象の想いや看護者の言動が患者に与える影響について考察する。 	講義・演習	山田 祐子
3	<ul style="list-style-type: none"> 3. 診察・検査および治療に伴う看護 1) 精神科における観察と記録の特徴 2) 診察・検査に伴う看護 	講義	寺田 鈴子
4	<ul style="list-style-type: none"> 3) 薬物療法に伴う看護 	講義	霜村 健
5～7	<ul style="list-style-type: none"> 4) 精神療法を受ける患者の看護 5) セルフケアの援助 <ul style="list-style-type: none"> (1) セルフケアの支援（教育的介入） (2) 対人関係スキル（SST） (3) 安全への配慮 4. 家族への支援 <ul style="list-style-type: none"> 1) 家族システムのアセスメント <ul style="list-style-type: none"> (1) 家族のストレス (2) 家族の対処能力 (3) ソーシャルサポート 2) 家族への教育的介入と支援 3) 患者-家族関係の調整 	講義・演習	寺田 鈴子
8～10	<ul style="list-style-type: none"> 5. 精神障害者の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 気分障害患者の看護 2) アルコール・薬物依存患者の看護 3) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害患者の看護 4) 統合失調症患者の看護 	講義	吉岡 賢一
11・12	<ul style="list-style-type: none"> 6. 心の健康を支援する技術 <ul style="list-style-type: none"> 1) 認知行動療法の歴史と基本的な考え方 2) 認知行動療法の適応 3) 認知行動療法によるアセスメント 4) 認知行動療法の技法 ※ 演習方法：認知行動療法のアセスメントシートを用い、自分自身の習慣化している行動、あるいは架空の事例の行動について認知行動モデルの視点から捉えなおすワークを行う 	講義・演習	津村 俊博
13・14	<ul style="list-style-type: none"> 7. 精神障害の治療法の実際 <ul style="list-style-type: none"> 1) 芸術療法の目的と効果 2) 芸術療法の指導上の注意 3) 作業療法と指導上の注意 	講義・演習	森 啓訓

	4) レクリエーション療法と指導上の注意		
15～23	8. 精神に障害のある患者の看護過程展開 1) リカバリーの旅と支援プロセス 2) オレム-アンダーウッド理論の理解 3) 看護過程展開 事例) 統合失調症 回復期にある対象 (1) 統合失調症の病期と看護 (2) リカバリーの旅と支援プロセス (3) 事例患者の看護展開 事例：統合失調症 回復期にある対象 ① 対象理解 ・ B P S モデルを用いた情報の整理 ・ M S E を用いた精神状態の査定 ・ セルフケアレベルの判定 ② 総合アセスメント ・ 看護問題の抽出 ③ 関連図 ④ 看護計画の立案（日々の計画立案） ⑤ 実践（ロールプレイング） ⑥ 評価 ・ 計画の妥当性 ・ プロセスレコードによる関わりの評価	講義・演習	山田 祐子
	終講試験	試験(評価)	単位認定者 山田 祐子